

令和7年度 議会広報委員会 視察報告

令和8年1月29日、全国町村議会議長会主催の広報コンクールで第1位に輝いた「福岡県大刀洗町議会」を訪問し、議会広報誌の編集について視察研修を行いました。

大刀洗町議会に学ぶ

ー 福岡県大刀洗町議会 ー [開かれた議会]

大刀洗町の広報誌は、定例会の報告にとどまらず、議員の閉会中の活動や議会の詳細な動きなど、議会全体の活発な活動がひと目で伝わる充実した内容でした。住民に手に取って読んでもらうため、紙面の見やすさへの工夫はもちろん、市民の意見交換会やモニター制度を積極的に活用し、市民のリアルな声を反映させた紙面づくりが行われていました。

ポイントハット

- 興味を引く見出しの工夫（思わず読みたくなるような、住民目線のキャッチーな見出し）
- 議員の本音をつぶやくコーナー
- 一般質問の「答弁追跡」（行政の「検討する」という回答に対し、その後の進捗をしっかりと追いかける仕組み）



視察を終えて...

議員のつぶやきや答弁追跡などは取り入れていけるコンテンツだと考えます。広報誌は単に伝えるだけのものではなく、議会活動そのものだと感じました。

意見書

地方財政の充実・強化に関する意見書

いま、地方公共団体には、急激な少子・高齢化にともなう社会保障制度の整備、子育て施策、人口減少下における地域活性化対策はもとより、DXの推進、脱炭素化、物価高騰対策など、極めて多岐にわたる新たな役割が求められています。加えて、多発化する大規模災害への対応も求められる中、地域公共サービスを担う人員は不足しており、職場における疲弊感は日々深刻化しています。

2026年度地方財政計画は、物価高や人件費の増大に対応する内容となっていますが、2027年度政府予算及び地方財政の検討にあたっては、物価高騰や賃金上昇に伴う行政コストの増大を的確に反映し、一般財源総額のさらなる充実が図られる地方財政を実現するよう求めます。

多久市議会として、上記についての意見書を国に対して提出しました。

令和7年度 議会運営委員会 視察報告

令和8年1月26日、27日の2日間で大分県杵築市および津久見市において、政務活動費とタブレットの活用・議員定数削減をテーマとし、視察研修を行いました。

政務調査費とタブレットについて

ー 大分県杵築市 ー

杵築市は当市と同様の規模で、議員定数・政務活動費・タブレット導入の先進地です。

ポイントハット

[政治活動費]

- 政務活動費は1月あたり1万5千円、年額18万円まで活用可能（内容は研修費や政策研究の活動費、広報活動費などとされている）
- 議会チェック機能や政策立案能力の向上、議員活動の見える化

[タブレット]

- ICT活用による職員の労力軽減、議会運営および審議の効率化、ペーパーレス化

視察を終えて...

タブレット導入により、紙社会からの脱却。ペーパーレスや資料の整理、検索、持ち運びなどはるかに便利だと感じました。一方で研修、体制作りが必要とも感じました。



議員定数について

ー 大分県津久見市 ー

議員定数を2名削減し12名とし、少人数での委員会活動、および議員活動が行われています。議員定数削減後の変化について意見交換を行いました。

ポイントハット

- 議会の在り方に関する特別委員会を設置し、調査・研究
- 委員会などで議員個々の発言が多くなったと感じられている
- 一方で地域の声を十分に拾えているか疑問

視察を終えて...

議員の人数が減ることで、地域の意見を十分に把握できないことや、専門的な知識を持った議員が減ったことで、定数削減について後悔されている声もあり、慎重な検討が必要だと感じました。